

太郎代の天曝観音

あまざらし

天正年間(1573~1592)1人の僧がこの地へ来て塔婆山に読経を捧げ、「太郎太夫菩薩のために観音像を贈らん」といって去りました。翌年、沖合いに一艘の船が、風はあるのに一向に進まないで、船頭は不思議に思っていました。枕元に「こここそ結縁の地である我を陸揚げせよ」とのお告げがあり、船が積んでいた観音像を浜に揚げたところ、船足が軽くなり動いたといいます。里人たちは観音像を鎮守の境内へ安置しましたが、不思議なことに一夜にして像が倒れ、或いは所を変えたりして安住しません。里人はこれこそ前年に僧が約束した観音像に違いないと悟り、塔婆山に移し御堂を建てましたが、風もないのにお堂の屋根が飛散し幾度建て替えても同じことを繰り返すばかり、里人は観音像を天曝しにすることにしました。それ以来何事もなく平安な日が続いたそうです。天曝観音と称せられる所以と言われています。境内には33の小観音像や龍神の塚や多くの石仏があり、越後の三十三観音札所の番外となっています。



塔婆山金龍庵



開村の祖 齋藤太郎太(太郎太夫)の鎮魂碑も境内にある



太郎代天曝観音像

松潟の大地蔵

松潟の鉄相寺の門前にあり、身替わり地蔵、汗かき地蔵とも呼ばれています。「地蔵様が汗をかくときは何か事故が起きる」といわれ、1964(昭和39)年の新潟地震の前にも汗をかいていたのが確認されています。この地蔵様の台座の下からは、1988(昭和63)年の御堂改築時に何百もの写経石が出土しました。1843(天保14)年の銘のある写経石もあります。



出土した写経石



凶事を予言する(?)汗かき地蔵

松浜の鎮守

松浜稲荷神社のある場所は、高さ24.21mです。社殿の裏手には、国土地理院によって一等三角点が設置されています。これは、新潟市でたった1つの一等三角点です。一等三角点は、県内では29カ所あります。境内は松が生い茂り、周囲の道からは阿賀野川の河口や松浜橋も望むことができます。ここには、地域の歴史を伝えるさまざまなものがあります。産土神として地域の人々の信仰を集めているのが、稲荷神社です。祭神は宇賀御魂命(倉稻魂)で、あわせて大日靈貴尊(天照大神)、誉田別尊(応神天皇)をまつています。このほかに、江戸時代からたびたび火事に見舞われた松浜の火除けの神様として信仰された古峰神社や、船人から信仰を集めた金毘羅神社もあります。

村山得次郎頌徳碑

境内には、松浜の繁米の基礎を築いた村山得次郎をたたえる頌徳碑も建っています。得次郎は、1873~74(明治6~7)年、阿賀野川の浅洲を新潟の湊元忠次郎の協力を得て埋め立て、新屋敷(松浜本町4)を造成しました。また、朝市が立ち始めたこの地に1876(明治9)年、県に願い出て二・七の市を開設しました。さらに、江戸時代から新潟町と交わっていた不条理な契約を撤廃して開港することにも尽力しました。得次郎は、1886(明治19)年に志半ばに36才で亡くなりますが、運動は引き継がれ、1893(明治26)年に交易港として国会で正式に認可されました。その後、交易が盛んとなり松浜は大きく発展しました。

一等三角点



松浜稲荷神社

明治戊辰西郷隆盛宿営地の碑



『慶応4年7月23日、北越出征軍の総差引を命ぜられ、8月6日3隊を率い春日丸にて鹿兒島発、10日柏崎着、11日新潟着。時に新潟・長岡は7月29日に陥落して北越略々平定す。よって西郷軍は松ヶ崎に移る。西郷軍は海からの戦略を変え、陸路で松ヶ崎から米沢へ、そして庄内へ向かう。滞陣中に次弟吉次郎が越後で戦死す。(9月9日)』といった史実から、西郷隆盛が1カ月近く松ヶ崎(現在の松浜)に滞在していたようです。



「西郷隆盛宿営地」の碑(昭和5年建立・太夫浜)

石原倉右衛門の墓

庄内藩の重臣。1868年7月25日、新潟で武器の買い入れを終えて帰る途中、松浜の五軒町付近で、太夫浜に上陸し新潟に向けて進軍中の長州兵(新政府軍)に遭遇し、討ち取られました。遺骸は村人が近くの砂丘に埋め、墓石には南無阿弥陀仏と刻まれました。倉右衛門が持っていた「武器売買契約書」が重大な外交問題に発展し、日本初の領事裁判が行われました。



「殉難遺蹟」の碑(左) 石原倉右衛門の墓(右)